

2004年に旭区の都市計画マスタープランが策定され、市民から「作るだけじゃなく、具体的なものにしてほしい」という声があがり、それを現実させるためワーキンググループで、市有地を利用したコミュニティガーデンのアイデアが生まれました。この二俣川ニュータウン

市の未利用地が 多世代交流の場に変身

緑地にある市有地が選ばれたのは、不便で高圧線のふもとという環境を理由に活用されずにいたからでした。当時は、雑草が頭の高さまで生い茂り、ゴミの不法投棄もあって、あまり人が寄り付かない場所だったそうです。それを公募で集まった地域住民が、少しずつ手入れをして、9年目となった今では約180坪



今では、散歩コースにもなっています



バザーの売上や地元会社の寄付だけで運営。寄付をいただいたら、このように掲示します。

の敷地に果樹、花、ハーブ、体験、イベントの各ゾーンができました。体験ゾーンでは、作業所に通う中途障がいのある方が畑を耕したり、イベント時に子どもたちが収穫体験をしたりします。花ゾーンとハーブゾーンには、季節に合わせた花やハーブを植え、ハーブはイベント時にハーブティーとして提供します。

メンバーは、現在45人。月4回の活動日には、7・8名の主に男性が畑や花の手入れをしています。定年まで地域の人の顔も知らずに過ごした男性たちが、ここで初めて地域の同世代の人と出会い、一緒に汗を流しながらのたわいのないおしゃべりを楽しんでいきます。また、多世代交流を一番の目的としているため、収穫祭には親子で参加できるイモ掘りや焼き芋を行なっています。最近では地域にも飛び出し、地区セ

ンターのお祭りに参加したり、地域ケアプラザにゴーヤで緑のカーテンを作り、収穫し調理して食べる親子教室を開催したりもしています。

また今では、エコガーデンということも意識しています。ガーデン内で堆肥を作り循環させているだけでなく、家庭で出た廃油の回収や、「エコ笑こまつり」を実施しています。「ソーラーパネルで動くおもちゃ作り教室」、「プランターでの堆肥づくり講座」、エコグッズやリユース品販売などを行なうことで、地域の人や子どもたちにも楽しくエコに取り組んでもらいたいと考えています。

めっちゃどろクラブ



親子体験農業

根岸駅から海沿いに歩いて10分、磯子第二ポンプ場滞水池施設の2階に屋上緑化の磯子・海の見える公園があり、その一角にめっちゃどろクラブが管理する畑があります。

「めっちゃどろクラブ」は、生涯学習コーディネーター養成講座で、「食と緑と子どもたち」をテーマに発表を行った6人のメンバーと、横浜市市民農業大学講座修了者の有志でなる「横浜農と緑の会」は農業楽」の12人のメンバーで2007年に設立しました。

「都市化が進み、子どもたちが自然に触れる機会が少なくなってきた。外で走り回る無邪気な子どもたちの姿を見なくなったこと

作って、食べて、元気に学ぼう！ 農を通じた「遊び」と「学び」

は、本当にさみしい。」と荒木代表。土づくりから収穫まで、自分が育てた野菜を、自分でとって食べる。この農体験を通じて、思いっきり自然を感じてもらい、子どもたちが環境と向き合うきっかけになってほしいという願いを込めて、毎年磯子区内の子どもたちを対象に親子体験農業を開催しています。

この体験農業では、「作って、食べて、元気に学ぼう」をテーマに、種まきから収穫まで1年かけて体験し、自然の大切さを学びます。

この事業を始めた背景には、子どもへのいじめ、自殺、虐待、孤立す



事前学習では、今日の作業を学びます

る家族、摂食障害などの社会課題に対し、何かできないかという思いから立ち上げたそうです。

「野菜を育てるには、『愛情』が必要、友達と接するときも『愛情』をもって接してほしい」荒木代表は毎年、この言葉を子どもたちに贈ります。

「親と一緒に農業を体験するので、親同士の横のつながりが生まれ、家庭内のコミュニケーションも生み出される。ここで生まれた小さなコミュニティとなり、この地域で育つ子どもたちが環境を大切に考えられる大人になれば、きっと緑豊かな地域になる。」とめっちゃどろクラブのメンバーは考えています。